

令和 3 年度

事業所名 : グループホームあてるい

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500352		
法人名	株式会社ヒトタ商事		
事業所名	グループホームあてるい		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字石橋7番地		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の笑顔を大切に、日々個々の尊厳を守る役目に努め、家庭的な明るい雰囲気づくりを心掛けております。隣接している有料老人ホームと現在は感染症対策で制限されておりますが、入居者様同士の交流もあります。助け合いながら満足して頂けるサービスの提供・体制に努めております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、近くに大型スーパーや市民ホール、コンビニや薬局等の店舗が立地し、市の郊外でも利便性が高い地域に整備されている。隣接地には同一法人が経営する有料老人ホームがあり、相互に協力して利用者の交流や避難訓練の共同実施等が行われている。医療との連携に力を入れており、多くの利用者が系列の協力病院による訪問診療を受診しているほか、24時間対応の訪問看護サービスの利用もあって、医療連携の体制が良く保たれている。また、災害対策においても、夜間想定訓練を薄暮時間帯に実施し実践的な訓練としているほか、浸水想定訓練でも避難場所となっている隣接の有料老人ホーム2階への避難とするなど、有意義な訓練を行っている。食事の提供においても、利用者の好みをメニューに反映して提供するよう心掛け、食事を楽しむ工夫を重ねている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示。常に確認・意識・実践出来る様努めている。また、申し送りの時間等を使い統一に努めている。	運営理念をホール内に掲示するとともに、毎朝の申し送り時の話し合いで職員間の共通理解を図っている。しかし、理念策定から11年目となり、この間法人変更の際も見直しを実施していないなど、職員にとってあまり身近なものとなっていないということを、管理者も意識しており、見直しを検討している。	事業所設立当初からの理念は、11年を経過していることから、職員自身も見直し作業に参加して、利用者の尊厳や地域交流等をより意識した理念を策定することにより、理念と一体となったケアが進められることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、交流していない。	自治会に加入し、事業所の広報誌「あてるい通信」を自治会で回覧してもらい、事業所理解の一助としている。コロナ禍で、ボランティアの受入れや子ども達との交流など、ほとんどが中止となり、交流機会が大きく減じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	孤立した雰囲気にはせず、どなたであっても来所・交流出来る環境にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度も新型コロナウイルス感染症対策により、資料を委員の方に郵送し、意見交換をしている。	コロナ禍のため、市からの指導もあつて集合開催ができず、書面開催が続いている。各委員には、広報誌の他、入退所状況や行事報告、予防接種等の資料を送付し、委員からは感想や意見が寄せられている。委員会は行政区長や民生委員、家族代表とバランスの良い構成となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での出席から、情報の伝達・相談できる関係にある。	運営推進会議の委員として市長寿社会課の職員が参加しており、書面開催ながら会議の都度、意見を頂いている。また、要介護認定についても市の担当課や地域包括支援センターと日常的に連携を取り合っているほか、認知症地域支援推進員も受け入れている。コロナ感染防止のための消毒液やマスク等の配布も市からいただいている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関扉の施錠はしていない。スピーチロック等に気を付けながら、入居者様と接している。	身体拘束廃止委員会は3か月に1回開催し、職員の研修も年2回実施している。玄関の施錠は、夜間の防犯対策として夜7時～朝6時としている。スピーチロックについて、不適切な声掛けをする場合もあり、その場で注意するなどしているが、なかなか改善に結び付いていない面もあり、管理者も課題の一つと認識し研修でも取り上げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	日中の生活の中で、言葉遣いや態度などを含め、職員間で話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、必要性があると思われる方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせを行いながら、十分な説明を行い、質問等にも答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活から伺える希望を取り入れ、個別に対応する体制にある。	利用者の大半は言葉で意思を伝えることができしており、入浴時間や夜勤の際などに、外出の希望、運営に関する意見や要望等を受けている。家族には2か月毎に「あてるい通信」で担当職員等からのコメントを付けて送付し、喜ばれている。家族との面会は、感染予防のために玄関先に限っているが、現状、これといった不満は出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は、会議に限らず、業務中でも常に出してもらうようにし、検討するよう取り組んでいる。	職員からは朝の申送り時や2か月毎の職員会議で介護内容等の意見が良く出されており、ケアの改善に活かされている。職員の資格取得の支援も行っている。また、管理者との個人面談は定期的には行っておらず、今後の検討課題としている。	

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めて頂いていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等、機会を確保するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど交流がないため、機会をもういけたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ要望に沿ったケアプランを作成し、安心して入居して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係を築くため、丁寧な対応をするなど、心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の居宅ケアマネやサービス利用時に訪問・情報を得てご本人の意向に添ったケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の役割があり、家庭・家族としての雰囲気もある。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なご家族様への情報伝達は行っている。ご家族様の意向に関しても耳を傾け、良い関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ対策で今年度も面会制限をしているが、入居者様のご家族、友人などの面会希望は柔軟に対応している。	コロナ禍のために友人等の来訪機会はなくなっているが、玄関先という制限はあるものの家族との面会機会は確保している。理美容については、全員が訪問理容を利用し、2か月に1回の来訪を楽しみにしている。また、家族送迎で医療機関を受診する場合には、自宅に寄ってくる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の助け合いも生まれている。協力し合う姿がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からの情報や、入居者様担当職員より、情報共有を密にしている。コミュニケーションが難しい入居者様に関しては筆談や表情・行動から汲み取り共有・対応に努めている。	多くの利用者がその思いや意向を言葉で伝えることが出来ており、外出や食事の希望がよく出されている。「私の姿と気持シート」を活用し、利用者の願いや支援して欲しいことを情報共有し、花や野菜の世話をしたいとの希望等を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活での流れを強制せず、ご本人のペースを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌を活用しながら、変化に柔軟な対応をしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式・入居者様、担当職員からの情報やご家族様・主治医の意見も盛り込んでいる。	介護計画は、短期目標期間の3ヵ月毎に見直しを行っており、モニタリングは担当職員を中心に全職員が参加する職員会議でモニタリングシートを活用して実施している。職員間で情報共有しながら、各利用者の思いや趣味、習慣を取り入れた計画づくりを目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・個別ケース記録・業務日誌を用いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科・かかりつけ医の往診・車椅子・電動ベットの導入・定期的な理容を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も新型コロナの影響で面会を制限している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医または、ご家族様の希望による当事業所の協力医療機関での訪問診療を受け入れられる様に支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者は2人となっている。他の6人は協力医療機関による月2回の訪問診療を利用しているが、夜間の対応はない。また、薬局からは薬を届けてもらっている。委託している訪問看護ステーションから24時間相談対応、週1回の健康管理等が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護があり、健康管理・相談を継続して、行っている。また、24時間体制であり、特変や気づき等、常時報告し合い指示を受け、適切な対応を心がけている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、介護サマリーを医療機関に提示している。医師の説明を聞き家族と話したり、病院での様子を定期的に見に行き、状態を把握しながら、今後についての検討を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化や終末期についての説明を行い、ご家族様にはご理解を頂いている。また、介護度の変化に伴い、他施設への紹介や申し込みもお願いしている。	重度化や終末期の対応については、入居時に本人や家族に重度化対応指針により予め説明し、了解を得ている。夜間訪問診療の確保などの問題があり、看取り介助の取り組みは行っていない。介護度が高くなるなど重度化してきた場合は、入院のほか、特養、老健施設等への転入所となる場合が多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルより、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練をしている。水害に関しても訓練を今後行い、周知する。また、災害、マニュアルを法人内で検討・統一化を図る。	火災を想定した避難訓練を年2回行い、夜間想定訓練も夕方の薄暮時間に実施し、いずれも隣接の有料老人ホームと連携協力した実践的な訓練となっている。また、ハザードマップでは浸水想定区域となっているため、浸水想定訓練として避難所の隣接する有料老人ホーム2階への避難を訓練している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の姿を大切にしている。その方にあった声かけや促しをし、配慮している。職員間としては、対応後も振替を行い今後に生かすようにしている。	利用者の尊厳を大切にし、「さん」付けで呼ぶようにしている。利用者の羞恥心に配慮して、トイレ誘導では小声で「ちょっと一緒に行きましょう」などと声掛けし、着替えも個室で行っている。同性介助の希望には、希望に沿って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定権は入居者様にあると考える。職員が決めつけとならぬよう、思いを汲み取り達成まで見守っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間や就寝時間、食事など、利用者様のペースを大切に、希望には出来るだけ添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り服を自分で選んでもらったり、起床時の整容、外出時のおしゃれは、それぞれの好みに合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを考えながら、メニューを立てている。	献立作成と調理は職員が交代で担当している。利用者の好みを可能な限りメニューに反映させて提供している。利用者は野菜の皮むきやテーブル拭きなどを手伝い、プランターで食卓に上がるトマト、きゅうり等を栽培し楽しんでいる。恒例行事となっている中庭での焼きいも会は、楽しみな行事の一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた量、栄養バランス、水分量がある程度確認できている。水分摂取が少ない方もいるため、工夫しながら声をかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操、食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導・介助が必要な入居者様には、定時に対応している。	利用者全員がトイレでの排泄ができており、排泄チェック表を活用しながら、適時の声掛けとトイレ誘導を行っている。オムツ使用者はおらず、ほぼ全員がリハビリパンツとパットの利用となっている。失禁した場合には、利用者の気持ちに配慮しながら、優しい声掛けをしながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食には牛乳、昼食にはヨーグルトを提供している。また、下剤の調整により定期的な排便に繋がっている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームあてるい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定者には、声がけをし、理解を促している。個々の希望に合わせ、臨機応変に支援・対応している。	入浴は週3回午後を基本とし、一般浴槽の利用で特殊浴槽を必要とする利用者はいない。同性介助については、希望に沿って対応している。水虫対策として、マット交換を励行している。入浴時間は職員との会話を楽しむ大切な時間となっており、ゆず湯等による季節感の工夫もして、リラックスできる空間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態や習慣に合わせて、それぞれの部屋、ホールの過ごしやすい場所で休息をとっていただき、落ち着いて過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬する際は、職員でダブルチェックし、本人にも服薬時確認(氏名など)して頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみなど、利用者様それぞれに出来ることの役割をもっていただき支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さまの意向・ご家族様の了承を得ながら外出時は職員が同行し、外出支援を行っている。	コロナ禍の影響を大きく受け、以前のような外出機会を確保できなくなっているが、それでもお花見や紅葉見物のミニドライブは行っている。希望を伺いながら近郊の花見スポット等を巡り、楽しい時間を過ごしている。また、近所の公園付近までの散歩も行い、外気浴を兼ねて楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん個人での金銭所持はほとんどなく、ご家族から預かっているホームが預かり金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、家族様の了承の下読み上げすることもある。電話については、取り次いだり、口頭や文章でお伝えしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の写真を掲示することで、利用者様・ご家族様・面会者もご覧になり、雰囲気造りに繋がっている。	ホール内にはテーブルは三卓配置され、季節を感じられる桜の飾りつけなどがある。壁面には最近の行事の写真、利用者の貼り絵や塗り絵の作品等が貼られており、楽しさが伝わるようにしている。ホールでは輪投げやボウリング、体操などの様々なレクリエーションも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごせるよう配慮したり、食席に気の合う利用者同士に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品、思い出の品等ご家族様に確認し、持っていただける様配慮している。	居室にはエアコン、ベッド、クローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者はそれぞれテレビやラジオ、家族写真、衣装ケース等を持ち込み、壁には誕生日で贈られたカードを飾り、居心地良い空間としている。毎朝、職員と一緒に居室掃除を習慣化している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人に合わせて、安全で安心できる環境作り、自立した生活が送れる様、支援。		